



令和7年5月27日



名古屋港の荷役機械等の水素化への対応に向けた 水素供給インフラの設計・検証を開始します

名古屋港は、「名古屋港港湾脱炭素化推進計画」を令和6年3月に策定し、CNP（カーボンニュートラルポート）の形成を推進するため、温室効果ガスの排出量の削減を関係者と連携して進めることとしております。

このような中、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）が実施する「水素社会構築技術開発事業/地域水素利活用技術開発事業」に、豊田通商株式会社、大陽日酸株式会社、東邦ガス株式会社が共同で申請した「名古屋港及び周辺地域における、商用化を見据えた水素供給インフラの設計・検証」が採択されました。

本調査事業では、名古屋港のコンテナターミナルを中心に、コンテナを運ぶ荷役機械（タイヤ式門型クレーン（以下「RTG」という。））やトラック、フォークリフトなどの動力の燃料電池化（以下「FC」という。）に対応するため、水素の効率的な供給方法を確立することを目標としており、今回は水素を充填する供給インフラの設計・検証を開始します。

なお、本組合は、愛知県及びトヨタ自動車株式会社と共に協力者として参画しており、今後は、本調査事業に併せ、FCRTG等の導入を目指した取組みを推進し、名古屋港におけるカーボンニュートラルポートの実現に向けて取り組んでいきます。

【本事業の概要】

1 事業名称

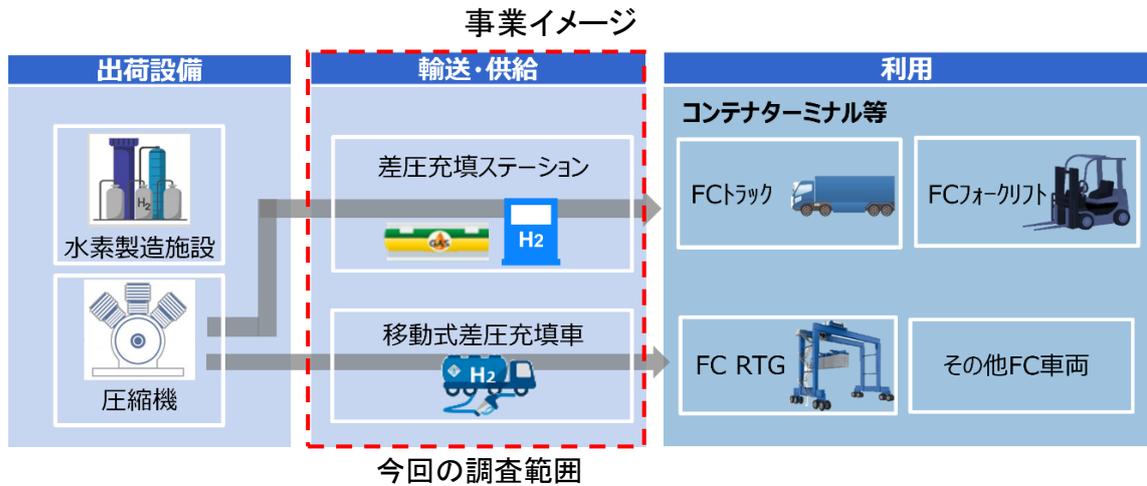
名古屋港及び周辺地域における、商用化を見据えた水素供給インフラの設計・検証

2 事業期間

令和7年6月 ～ 令和8年3月

3 事業内容

名古屋港及び周辺地域での荷役機械や物流車両による水素活用の実現には、港湾エリアならではの低コスト化水素供給モデルを確立する必要があることから、日本の保安基準に適合させながら技術面および事業面の検証を進めていきます。



4 実施体制

体制	名称	役割
共同実施者	豊田通商株式会社	事業取り纏め、事業化の実現性・経済性の検証
	大陽日酸株式会社	供給インフラの設計指針構築・安全性検証
	東邦ガス株式会社	最適な出荷設備検討、運用検証
協力者	愛知県	自治体許認可関連の検討サポート、FC商用車導入プロジェクトとの連携
	名古屋港管理組合	港湾エリアでの水素利活用展開に関する検討サポート、港湾事業者との連携
	トヨタ自動車株式会社	水素タンクの知見共有・提供、FCモビリティの知見共有・提供

参考 NEDO 水素社会構築技術開発事業/地域水素利活用技術開発

地域における水素利活用の促進に向け、地域特性に応じた様々な需給を組み合わせた水素サプライチェーンに関して、必要となる調査研究、技術開発を行うことにより、水素社会実装のモデルを構築する。

【お問合せ先】

政策企画部 次世代エネルギー推進担当
 担当 戸谷、水野
 TEL 052-654-7958